

主任 工藤 真由美

部員 阿保 秀歩, 菊地 和恵, 高橋 千晶

目指す児童の姿

自他の運動課題解決のために知識や技能を活用できる

体育科における納得解を導く姿を「自他の運動課題解決のために知識や技能を活用できる」と設定し、研究に当たる。

I 目指す児童の姿について

運動課題を解決するために、仲間と共に知識や技能、経験に基づいた考えを出し合いながら思考力、判断力、表現力等を働かせている姿である。

「自他の運動課題解決のために」とは、自己の学習活動を振り返りつつ、自分や仲間が直面した運動課題（保健領域においては健康課題）を共有し解決に向かうことである。自分の課題解決のために考えたことが仲間の課題解決にもつながり、仲間の課題解決のために考えたことが自分の課題解決にもつながる。互いに高め合い考えを深めていく中で、児童は自分のみならず仲間ができるようになることにも価値を見いだし、仲間と共に解決する良さも実感できる。

「知識や技能を活用できる」とは、新たな情報と既存の知識や技能、経験に基づいた考え等活用しながら課題を解決したり、自己の考えを形成したり、新たな価値を創造したりするために、必要な情報を選択し思考し判断したことを言葉や動作等で仲間に伝えることである。

II これまでの取組について

目指す児童の姿に迫るために、一年次は「集団での振り返り」と「個の振り返り」に取り組んできた。成果としては、導入場面において、作戦ボードや動画等を使用して集団で振り返ることにより、本時の課題を見出すことができるようになったことである。動きや思考の流れなどを視覚化することで、共有認識のもと話し合いが進められ、見通しをもって課題解決に向かうことができた。課題は、自己変容の捉えさせ方である。低学年において自己の動きや思考の過程を客観的に捉えることが難しいことが挙げられた。

III 研究内容について

新しい生活様式を踏まえ、目指す児童の姿に迫るために、研究内容として以下の二点に取り組む。

1 仲間と動きを見合い教え合う活動の設定

運動課題を共有しその解決に向けて身体操作を繰り返し試行錯誤する際、仲間と共に動きを振り返り、考えや気づきを伝えることが必要である。そのために、動きのポイントを選出し見合う視点を明確にしていく。また、教え合う際に同じ動きであっても異なる言葉を使うことで、動きが捉えにくいことがある。そこで、動きのポイントを認識することができるように、大切なポイントを記した写真や図などを掲示したり、動きをイメージしやすくなるようなキーワードを示したりする。

保健領域においては、仲間と考えを共有し伝え合う活動の設定として考える。健康についての課題を共有しその解決に向かう際、健康に関わる正しい知識を基に考えることが大切である。そのために養護教諭等と連携を図る等、手立てをとっていく。また、自分の考えだけでなく仲間の考えも取り入れて、自分の考えを更新したり見つめ直したりできるようにする

ことも必要である。そこで、観点を明確にして考えを伝え合うようにする。

対話・協働における新たな視点にたった授業形式の工夫やオンラインツールの活用等により、新たな生活様式にも対応できる授業を工夫していく。

2 変容に気付くための振り返りの場の設定

児童は課題を解決するなかで、新たな情報と既存の知識や技能、経験に基づいた考え等を活用しながら、自己の考えを形成したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を選択し、思考している。そのために、自己の学習活動を振り返りつつ、課題を修正したり、新たに設定したりすることが大切である。そこで、学習シートを使用して自己の考えの変化や気づき、課題等を学習履歴として記録させていく。対象学年に応じて、記述項目や内容を変えた学習シートを準備する。児童が学習過程を振り返り単元学習後の自己の変容に気付くことができるような学習シートとする。

Ⅲ 研究・検証方法について

- 1 学習シート等の記録，児童の発言記録，録画記録から児童の変容を分析し検証を行う。
- 2 形成的評価の結果を蓄積し，分析する。